

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 5 年 4月 5日

事業所名 マザーズ和田

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○				
	2	職員の配置数は適切である	○			コンプライアンス委員会を設置しており、人員配置を含め法令遵守に則り運営している。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○		事業所内の段差をできる限りなくすようにしている。	利用する児童の特性や障がい等に応じて今後も柔軟に対応できるように体制を整える。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○			朝礼、終礼を毎日実施している。児童への支援を含め振り返りを行い、次に繋がるよう心掛けている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			年1回実施。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			ホームページに掲載している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			○		今後の実施を検討していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			毎日の勉強会実施と年間計画に基づき社内研修を実施している。その他、外部研修にも積極的に参加するようにしている。	今後も社内研修、外部研修への積極的なさんかを通して職員の資質向上を図っていく。
適切 な 支 援 の 提 供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			利用に際しての見学、体験、契約、計画更新時に保護者との面談、本人からの聞き取りを行い個別支援計画に反映している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○		事業所内で作成したアセスメントを使用している。	標準化されたアセスメントツールの使用を検討し、可能であれば実施する。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			各プログラムごとに担当を設け、担当を中心に教室の職員全員で行っている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			毎月予定表を作成し、同じプログラムが連続で実施されないようにしている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			休日や長期休暇には外出等の活動を組み込むなどして、支援を行っている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○				
15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			朝礼時に当日のプログラムを共有している。 午後から出勤するスタッフ(パート)がいる場合はサービス提供時間開始前に共有を行っている。		

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 5 年 4月 5日

事業所名 マザーズ和田

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			終礼時に行っている。	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			社内でアプリを開発し、そのアプリを使用して利用児1人ひとり記録を取っている。記録の一部は保護者とも共有している(連絡帳として)。	
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			最低6か月に1回以上行っている。必要に応じて支援期間を早めるなどして日々見直すようにしている。	
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	○				
関係機関や保護者との連携	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			個別支援計画を作成する児童発達支援管理責任者が参加している。	
	21 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○			学校への送迎時に情報共有を行うようにしている。 難しかった場合は後日電話をするなどして対応している。	
	22 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			園との会議に参加するなどして情報共有と相互理解に努めている	
	23 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			要請があれば会議にサービス担当者会議等に参加し情報共有を行っている。	
	24 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			機会があれば児童発達支援センターが主催の研修等に参加している。	
	25 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○			今後、どのような形で関わる機会を設けることができるか検討しながら地域交流の一環として行っていく予定。
	26 （地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している		○			
	27 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			送迎時のやり取りや連絡帳アプリを通じて情報共有を行っている。	
28 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○			2023.2.18にペアレントトレーニングを実施した。	新年度もペアレントトレーニングや座談会等を実施する。	

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 5 年 4月 5日

事業所名 マザーズ和田

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	29 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			契約時に実施。 利用開始後もいつでも閲覧できるよう玄関に書類一式をまとめてある。	
	30 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○				
	31 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		イベントの実施を通して関わる機会を設けることが出来た。	保護者会の実施は感染症等の状況、社会情勢を踏まえて実施する。
	32 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○				
	33 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			毎週1回ブログを更新し毎週の活動報告を行っている。 マザーズ新聞を年2回、発行している。	
	34 個人情報に十分注意している	○			個人情報が記載されている書類は鍵付きの書庫にて保管している。また、契約時に個人情報使用の同意書にサインを頂いている。	
	35 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○				
非常時等の対応	36 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		イベント時に隣の事業所の方を招待した。	
	37 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			契約時に全てのマニュアルを一つにして渡している。	
	38 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			年間計画に基づき火災・水害・地震による避難訓練を実施している。	
	39 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			虐待防止委員会を設置し、年2回以上研修を実施している。	
	40 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			必要であれば必ず保護者、相談支援員、本人に説明している。 身体拘束についての研修は年1回以上実施している。	
	41 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			必要に応じて保護者や医師からの情報を共有している。	
42 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			事業所内での再発防止は勿論のこと 全社でも再発防止のため、共有を行っている。		